



つなぎ

Vol.116

2014
Spring

平成26年4月1日

発行人 長野県民生委員児童委員
協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 編集委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)

特集 会長研修から学ぶ、 民生児童委員の現状と役割

Contents

- ◆特集 会長研修から学ぶ、
民生児童委員の現状と役割2~5
会長研修講義内容&グループ討議
- ◆民児協訪問 飯田市上久堅地区 6
- ◆ひろば 「全国児童委員研究協議会に参加して」 7
- つなぎ人 「なかちゃん」代表 滝澤静子さん 8



特集

会長研修から学ぶ、 民生児童委員の現状と役割



昨年12月の一斉改選後、県下2カ所で民生児童委員協議会会長研修を開催しました。

県内には284の単位民児協があり、その半数以上の民児協で新しい会長が誕生しています。そこで、今回の研修では、「民児協会長としての役割と心構え」をテーマとして、松藤和生氏（プロフィール参照）を講師にお迎えし、民生児童委員活動や地区民児協活性化のための工夫について学びました。

今号では、講演の要点の紹介と、特にグループ討議に焦点を絞って要約して紹介させていただきます。（26年1月22日、東北信会場：ホクト文化ホールでの研修を取材したものです）

地域と時代を踏まえ、活動を自ら考える時代へ

講演会で松藤和生氏は、まず、現代の地域を支えるのは、団塊世代を中心とした高齢者が中心になっていること。民生児童委員の平均年齢が60代になっているのは、当然の事で、それぞれの分野で活躍して定年後、そのノウハウや専門性を地域福祉活動に生かしてほしいと述べました。

民生児童委員の活動については、ヨコ軸が「地域性」、タテ軸が「時代性」とし、活動はどまるところがなく、どこまでかかわってよいのか迷うことも多い



地域福祉の情報を共に勉強し 案内することが大事

が、自分たちの住む地域や、時代背景による地域の環境変化に添った活動を、自分たちで考えて、やると決めたらということやることだと話しました。

民生委員制度の歴史についても学びました。民生委員の前身「方面委員」の時代とくらべ、今は、住民の生活実態を把握するのは難しい時代となったこと。平成時代になり福祉基礎構造改革がなされ、いま、日本国民は福祉サービスを自分で探して契約・利用していく時代であることなどを、松藤氏が説明しました。

その上で民生児童委員に大事なものは、行政の福祉サービスはもとより、自分たちの地域でNPOや民間会社、福祉団体が行っているいろいろな福祉サービスを把握し案内できるよう、委員同士で学び



講師：K T 福祉研究所代表

松藤 和生 氏

プロフィール

障がい者の父親の下で育ち大学卒業後千葉市社会福祉協議会に入職し地域福祉活動の現場を経験。1999年に同研究所を友人と設立。民生児童委員活動取材も含めた全国の地域福祉活動の調査・研究をはじめ、地域福祉活動計画のサポート、講演会・研修会講師、地域福祉コンサルタントとして全国で活躍中。

委員同士、ケース検討を重ね、互いに研鑽を

あつことや福祉サービスの变化の流れは速いため、最新の情報を入手するよう心がけることを強調しました。

その後のグループ討議では、「金銭がからむ」場合の具体的な対応について、地区民児協活動の活性化のための定例会の活用方法、研修や交流のあり方について議論しました。そして松藤氏が改めてグループ討議の最後に、それぞれの課題や事例について整理することで、参加者は民生児童委員の役割や民児協の役割等について、多くの気づきを得ることができました。

単位民児協会会長だけでなく、すべての民生児童委員の皆さんに今回の研修を参考にしていただき、今後の活動に役立ててほしいと願います。



グループ討議9番

青木松子さん(須坂市西部)
 深瀬敏一さん(長野市長沼)
 清水 茂さん(佐久市望月)
 清水 始さん(千曲市稲荷山)
 中澤敏子さん(長野市三輪)
 鷹野良信さん(上田市塩川)

グループ討議 1
 事例検討

在宅高齢者へ民生児童委員の訪問回数や、現金を貸して欲しいと言われたときの対応について意見交換しました。

月1〜2回訪問、地域で工夫して見守る

鷹野―みなさん何回ぐらい訪問されていますか。私は男性なので、女性のところへあまりたくさん訪問すると嫌がられることもあります。

青木―一人につき、月1回ぐらいですかね。市からなにか依頼があれば、電話をしてからつかうようにしています。

鷹野―私は月2回ぐらいです。電話もしてはいますが、いくら名札を下げていてもいやがる人もいます。上田市で女性の前会長のアドバイスでは、民生児童委員が地域のサービスで紙オムツを届けるとき、むき出しでなく袋へ入れて渡すなど



気遣いをとられました。

清水茂―佐久市は人口10万人です。75歳以上の独居老人を対象に月1回、民生児童委員がお弁当を届けています。「ふれあい給食サービス」といって、市社会福祉協議会が主体となり600人に届けています。配達をしながら「お体の具合は？」と自然に話ができます。

鷹野―安否確認をしながら弁当を届けているのですかね。いいですね。
 清水茂―はい。心を許して隠さずに話してくれそうです。350円の食材費で、そのうち100円は本人負担で私達が集金もします。7、8月は衛生の関係で配食はお休みします。

深瀬―私の地区は田舎なので、月2回ベースに70歳以上の独居老人を見守っています。皆さん高齢でも畑仕事をやっているんで、畑で見かけたり、夕方早めに電気がついていかなど見守ります。近所の方にも声を掛けて、見守りネットワークをお願しています。

鷹野―向かいに精神障害の方がいらっしやるのですが、人に会いたくないのです。だから新聞や洗濯物の取り込みなど、また電気がついているか、買い物に行っているかなど、毎日見守っています。

金銭を貸さないよう、皆で情報共有

中澤―みなさん、金銭の支援はどうしていますか。

鷹野―私は一度失敗しています。5千円貸してと言われて貸しましたが、返ってきませんでした。その経験を生かし、今は自分では貸さずに生活福祉支援金に紹介しています。実は私の親が昔民生委員をやっていたのです。お米や味噌を分けていましたが、今は時代が違いますね。
 清水始―やはり、私も「つなぐ」だけになっています。

鷹野―そうですね。市や包括支援センター、社協などへのつなぎ役になっていったほうがいいですね。

青木―生活福祉資金を紹介して支援が始まった人がいます。前任者から郵便ポス



トの物は絶対にいじってはいけないと言われました。先輩からのアドバイスは大事にしていったほうがいいと思います。一方、「前任者はやってくれた」と言われることがあります。それは聞かないほうがいいと思います。入院の保証人についても当事者の友人を探してやってもらいました。

鷹野―経験から、いったんお金を貸したら戻って来ません。

青木―そういう経験をぜひ他の委員につないだほうがいいと思います。

鷹野―例えば公営住宅などにはいろいろな事情を抱えている人がいるので、対処するのは難しいですね。

中澤―お金を貸しちゃいけないことになっているので、「民生児童委員として貸してはいけない」という決まりがあるので「ごめんね」と、個人ではなく委員という立場で話して理解してもらいま



す。実際生活保護をもらっているお年寄りが訪ねてきて「5万円貸して欲しい」と言われました。市の厚生課へ相談してくださいと断りました。緊急時についてはマイカーではなくタクシーを呼ぶよう

先生のアドバイス

委員同士話し合う態勢を作り、自立を促す

にしています。本人からタクシー代ももらいます。ですが、どうしてももらえないことも…。数千円以内ならとは思いますが、基本的にはいただくのが筋だと思います。

訪問回数については「できる限り」と先輩に言われれば、新人民生児童委員はまじめだから思い切り訪問してしまつ人もいます。まじめな方ほど疲れてしまいます。ですから基本的に月何回訪問するかを地区で決めてみたらいいと思います。各地区の民児協でケースについてはきちんと検討することが大事です。

また「お金を貸しちゃいけない」と委員にちゃんと伝えていきますか？ 貸してしまい、誰にも言えずやめていく委員が多いようです。いざ「貸して」と言われれば断りづらいだろうから「会長に電話をしていければ私が断つてやる」と言えればいいのです。金銭以外の支援は地区の状況によります。これをやったらどうなっていくかの想像が大事ですが、新人は想像できません。定例会で事例を検討して、申し合わせしておくことです。「問題が出て迷ったら



とにかく会長に相談してくれ」と言つて、次の定例会で話し合えばいいのです。つまり、自分たちの地区で話し合つていく態勢を作つていくことです。委員に求められるイメージは「いかに中立的な判断ができるか」です。これは新人には難しいので会長がフォローし、常日頃、伝えておく必要があります。

そして「できることは当事者にやらせる」というのが福祉の基本です。やってあげる時代ではなく、豊富な情報を提供していき、本人達の力でできる、自立を促すことです。

グループ討議2
地区民児協活性化のための工夫

9グループでは、学習・研修の現状と今後の課題について主に話し合いました。

企画
施設見学や他団体との交流も

深瀬一年一回、地域の民生児童委員で旅行を企画しています。2泊3日で寝食をともにするので、仲間意識を作ることができます。

青木「私の地区は委員が10人です。2カ月に1回は研修や懇親会を企画しています。たとえば難聴について耳鼻科の医師に来て話してもらつたなど。難聴や高次機能障がい者の家族の会の話聞き、福祉施設の見学にも行ってきました。今後は小規模のデイケアもいいなあと思っています。計画をどうしようかと検討中です。ケース学習も定例会にあわせて1つずつ出して勉強します。3年の任期を終えたとき、誰もがやってよかったと喜びを感じられるような研修を考えたいですね。

清水(始)「前会長はそういうふうに積極的にでした。市の環境衛生問題が出てきたら、施設見学に行つて検討するなどしま



した。自分にできるのか今悩んでいます。

青木「戸隠・東御市・飯山など、他地区の民生児童委員との交流をしたのもよかったです。

中澤「私の地区では委員が31名いますので、委員の孤立を防ぐという配慮をしていきたいです。「自分が主人公」というコンセプトで、困っていることを出し合い、研修することをやりたいですね。でも31人という大人数なので難しいですね。1期でやめることにならないように、1つの部会で3年経験し、次の任期3年で次の部会にという

システムで、じつくり1つのテーマで勉強して行きます。

また部会とは別に地域を3つに分けて課題を出し合うグループも作り、2つの仕組みで孤立を防ぎます。やはりなんでも10ぐらいの人数がやりやすいです。

深瀬―部会の他にグループもあるのですね。

中澤―はい。予算を1人2000円つけています。自分が主人公で相談できる仲間作り、一方でやりがいを感じて欲しいと、力を入れて勉強会をやっています。

深瀬―私の地区は委員が8人ですから、定例会で共有できるので、あえてそういう試みはしていませんね。

鷹野―上田市では会長会6人で課題をひとつに絞って、各地区の定例会の前に検討会をします。同じ話題を定例会で出します。また定例会には小・中の校長、保育園の園長に出てきてもらっています。また福祉課や地域包括の職員にも来てもらい情報交換します。

青木―合同学習会や総会などで、単位民児協で講師を呼んで学習もします。

鷹野―上田市北部3地区の民児協で「つなぐ」などの親睦会や研修会をします。また福祉推進委員との親睦をしようという声があり、今度やることになりました。

清水(茂)―私の地区では30人もの大人数ですから、なかなか定例会では意見が出ないのが課題です。いつも、定例会では

6〜7人くらいしか発言しませんでした。

鷹野―それをどう引き出すかが、会長の役目ですね。

中澤―定例会では、委員会や部会から意見を出す形にしています。

青木―必ずみんなに発言してもらおうという心があることを前の会長から引き継ぎました。

先生のアドバイス

年間で取り組み、制度の意見具申も

民生児童委員だけでなく地域全体で地域福祉に取り組む時代です。たとえば、ふれあいサロンについては、富山・石川などでは複合型サロンが多くあります。障がい者や児童と一緒にふれあうサロンです。生協やNPO、農協など他の団体と協力していくことなどです。また、仲間

と学び合つのが単位民児協の役割です。委員が多数数なら、その後持ち帰って少人数の仲間と学んでいく。学習の場を設定していくことです。「つなぐ」や「ひろば」を学習資料にしたり、他の団体を呼んで研修したりすること、どう定例会に取り入れるかです。

たとえば定例会を軸にして研修会

の年間計画を立てます。行政などは特に1年間の計画を先に出して申し込んでおくことが必要です。また効果的な運営をするために、活動に関わることは関係各庁に具申することが大事です。民生児童委員が日本の福祉制度を作ってきたのです。ですから、これからの制度を変えていくのも民生児童委員であり、そのための民児協なのです。

困っているのが言いやすい態勢を

民生児童委員を助けられるのは民生児童委員のみです。委員同士なら守秘義務の心配はありません。仲間意識をもってリーダーである会長が信頼を得ていきながら進めていく欲しいです。よく定例会で困っていても言い出せず抱え込んでしまつて言つことも耳にします。ある民児協では、その対策として毎月の報告書

の裏側に「困ったことをなんでも書く欄」を設けています。会長がすぐに見つけて定例会で取り上げます。言えないことが書け、解決することで会長の信頼度は変わって行きます。また民生児童委員は地域に理解してもらつために、声を出していくことも大切です。他団体との連携も効果的です。これからは民生児童委員も専門性をもってやっていく時代がきます。60歳過ぎまで社会で活躍してきた人がそのノウハウを生かしてゆく時代です。民生児童委員は互いに助け合わなければ誰も助けてくれませんから、専門家がなければ、会長も楽になつて行くでしょう。



訪問



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協 だより



飯田市上久堅地区民生児童委員協議会



▲前列真ん中の椎名佑平会長以外は全員新人。

上久堅地区は飯田市東部に位置する典型的な中山間地域。約520世帯の多くは小規模な兼業農家で高齢化率は40%を超えています。7人の民生児童委員は60代が中心で、親の介護の時期と重なるなど一期のみの委員が多く、今期は、会長で4期目の椎名佑平さんを除く全員が新委員でのスタートとなりました。

地域全体で支える態勢目指して、オリジナリティーあふれる取り組み。

地域全体で支え合うことが必要と考える椎名さんは、そのための態勢づくりに積極的に取り組んでいます。平成25年度民児協活動振興事業に採択された上久堅小学校と、一人暮らしのお年寄りの交流事業もそのひとつ。小学生が予告なしの絵手紙年賀状を送り、その後には民生児童委員が感想を聞きながら安否確認の訪問。すると、喜びのあまり送り主の小学生に「おひねり」と呼ぶ地域伝統のお年玉を渡す人もあったそうです。

手作りカレンダー事業では、小学生が描いた絵で民児協オリジナルカレンダーを作成。贈られた高齢者が自分で学校のイベントを確認ができ、翌月への期待と張り合いをもって暮らせるよう工夫しています。圧巻は、椎名さんが脚本を書き、民生児童委員が演じる認知症理解のための寸劇です。学校長が、徘徊する認知症のお年寄り役を熱演して喝采を浴びたこともあり、劇を鑑賞した日に家庭で「将来、お年寄りを大事にする仕事に就きたい」と言う小学生がいたことも励みになりました。

今年からの目標は「『フレッシュ3燦会』の活動を広めること」。椎名さんが担当する3地区の「3」に、輝きを表す「燦」から名付けたこの会は、自治会とも連携し毎月行っている「高齢者が自立的に、前向きになるための活動」で、お膳立てをして参加者をもてなすようなスタイルではなく、認知症予防や健康維持の体操を覚えて実践するなど、若々しく輝く生き方に役立つ活動が特長です。5年間の実践で人気が高まり、他地区からの参加も増えていることから「関係団体と連携しながら上久堅全域に普及させたい」と意欲的です。



▲定例会も勉強の機会。児童虐待について飯田警察署職員から説明を受ける。

全国児童委員研究協議会に参加して

佐久市民生児童委員協議会



会長
小平 實

全国児童委員研究協議会が、1月20・21日に東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートにおいて開催され、全国から260名の児童委員等が参加しました。

【第1日】開会セレモニーと厚労省からの行政説明に続いて、「児童委員活動への期待〜全国児童委員活動強化推進方策の展開〜」と題して、昭和女子大学高橋久雄教授による講演がありました。

休憩後のシンポジウムは「地域全体で子どもや子育て家庭を支えるために〜子どもの貧困問題を中心に〜」をテーマに行われました。

子どもの貧困をめぐる現状や健康やかな育ちに及ぼす影響について理解を深めるとともに、課題に直面している子どもや家庭をどのように支援していくかについて、民児協や関係機関・団体での取り組みが紹介され、話し合いが進行しました。

ことに新宿区立かしわヴィレッ

ジの渋谷行成施設長による「かしわヴィレッジ」（母子生活支援施設）の現状についての熱い語りは、参加者に多くの共感を与えました。

その後の交流会では、北海道、福島県、東京都、京都府、島根県の皆さんと同じテーブルとなり、民生児童委員としての日ごろの活動内容や定例会の持ち方などについて多くの情報交換ができました。

【第2日】テーマ別に4分科会が行われました。



▲参加者左から山本さん、小平さん、伊藤さん、清水さん

■第1分科会「子どもや子育て家庭を支えるための民児協の役割や活動について」

（参加対象：民児協会長）

本県参加者：清水正則民児協会長（飯田市）・小平

新たな「活動強化推進方策・行動宣言」にもとづき、子どもや子育て家庭を支える地域づくりのための民児協内での部会活動や委員間の連携のあり方等について考えました。

足利市矢場川地区民児協会長からは、地区定例会を年3回小学校で開催し、学校・児童とのかかわりを図っているとの発表がありました。

本県の飯田市松尾地区民児協の清水会長が、松尾つ子、まちづくり委員会とのかかわりについての紹介をしました。

■第2分科会「幅広い関係機関との連携による切れ目のない子育て支援について」（本県参加者なし）

■第3分科会「児童委員が子どもたちにとって身近な「おとな」となるために」

本県参加者：伊藤延子主任児童委員（松本市）

悩みを抱えながら、家庭や学校ではその相談ができない子どもたちが増加している。児童委員が、そうした子どもたちが気軽に相談できる「おとな」となるために、直接子どもたちと接する機会を設け、信頼関係を形成していく具体的な取り組みについて話し合われました。

■第4分科会「保育所や学校等と連



▲第1日目の行政説明

携した虐待の予防や早期発見等に（ICG）

本県参加者：山本岩雄主任児童委員（山ノ内町）

深刻さを増している児童虐待の予防、早期発見、早期対応のための市区町村、児童相談所、保育所、幼稚園、学校等の関係機関との具体的な連携のあり方や課題、民児協としての活動展開について話し合われました。

今回の研究協議会に参加することにより、子どもたちにとってより身近な「おとな」になるよう努力しなければならぬと痛感した2日間でした。

長野市中条地区 生活支援グループ

「なかちゃん」代表 滝澤 静子さん



若い頃から
「地域のつなぎ役」として
力を発揮

草刈り、畑の耕作、雪かき、家事援助など、高齢化がいちじるしい中山間地域で、いま助け合いのしくみが必要とされています。長野市中心部から車で40分ほどのところにある中条地区は人口2千人ほどの中山間地域で、国道から山へ入ると高齢化率100%の地域もあるほどです。平成15年に住民の声がきっかけで、滝澤静子さんが地域に呼びかけ、地区の社会福祉協議会と協力し、助け合いのしくみ「なかちゃん」がスタートしました。

発起人で代表の滝澤静子さんを、地区のふれあいサロンの日に訪ねると、近所の家に救急車が止まっていて、滝澤さんはその手を配を終えてバタバタと集会所へ。「大丈夫よ。家族とも連絡がついたわ」と明るい声で言いながら、住民が集まるサロンでは司会進行役をつとめます。まさに地域の「肝(こゝろ)玉母さん」です。

34年前に夫が他界し、代わりに建設屋に

20年勤め3人の息子を育て上げました。もともとは父親と商売をしていたこともあり、地域のことはよく知っていました。また若い頃から農協の女性部や医療生協の健康づくり班の活動に加わり、精力的に地域の人たちの食や健康づくりのために尽くしてきました。「私はもともとお年寄りが好きだし、人のお手伝いをしたり、話をするのが好き」と滝澤さん。地域のお年寄り一人一人の状況が自然とわかっていたと言います。昨年まで民生児童委員もつとめていました。

「この地域ではお年寄りが自分で野菜を作って日々暮らすことが楽しみで、生活の一部。たとえ一人でも、みなここで暮らしたい」と滝澤さんは強調します。「なかちゃん」立ち上げの際には助けてくれそうな人に自ら声を掛けて集めました。草刈りだけでなく、介護保険では補いきれない家事援助なども、ケアマネージャーらと連携して行っています。「活動から10年がたち、人と人とのつながりができて、地域で信頼を得てきた」と話します。また滝澤さんは味噌やしょうゆも毎年自分で仕込んでいます。「活動の合間のお茶で、食を通じて1ターンやUターンの退職者や若い人たちの交流もできる。彼らと地域をつなぐ活動がしたい」と明るい笑顔で話しながら、手製の漬物を振舞ってくれました。

「なかちゃん」について問合せは
中条地区住民自治協議会内
TEL026-2697-1230



表紙写真紹介

佐久市「茨城牧場長野支場」

撮影

佐久市主任児童委員 木内 精司さん

市街地に近く、104haもある牧場で、北海道を思わせる景観の美しいスポットです。牧場内の桜は4月中旬に咲き始め、ヤギやウサギを眺めながら、花見が楽しめます。



profile 写真は、祭りやイベントに出かけたり写真教室の撮影会には、マイクロバスで出かけ美しい自然を撮っています。仲間との交流も楽しみの一つです。主任児童委員2期目。

編集委員

リレー日記

よつやく春めいてきたものの、この冬は寒波や大雪など天候不順が続き、皆さん、訪問や見守り活動にご苦労されたのではないでしょうか。

一斉改選から4か月になります。新旧の交代が多い民児協では新任委員を対象に訪問時の心得や活動記録の記入方法などの研修が行われたということです。全県では、一期目、二期目以上の各委員研修が開催されましたが、今号では、1月に行われました単位民児協会長研修を特集として取り上げました。活動するうえで参考にすべきアドバイスや事例が紹介されていますのでお読みいただきたいと思います。

改選に伴い本誌の編集委員も交代し、以下の4人が担当することになりました。

- 委員長 熊井文弘(長野市)
- 副委員長 草深邦子(松本市)
- 委員 古川友枝(上田市)
- 委員 依田宗夫(塩尻市)

民生児童委員を取り巻く課題や役に立つ情報などをタイムリーに取り上げていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

(熊井文弘)